

## 第5章 親しみのもてる水辺に関する市民アンケート

平成21年6月に、基礎調査のひとつとして「インターネットモニターアンケートによる市民意識調査」を実施しました。また、水辺に関する意識の変化を比較するため、平成28年7月に、「WEBアンケート」により同様の調査を実施しました。調査結果を以下に示します。

### ■ 身近に感じる水環境があるか (%)

平成21年度	平成28年度	平成21年度との比較	傾向	評価
83.5	94.8	+11.3		「千葉市の水環境」について、一番身近（親しみ）に感じる水環境（川や海、湧き水など）についてお聞きし、1カ所以上回答いただいた割合は、94.8%となり、平成21年度と比較して、水環境をより身近に感じるようになっていようです。

### ■ 水環境の問題で、気になることはあるか (%)

平成21年度	平成28年度	平成21年度との比較	傾向	評価
96.1	92.2	-3.9		本市の水環境の問題で、気になることについてお聞きし、あると回答をいただいた割合は、92.2%となり、平成21年度と比較して、低下はしていますが、その内訳として、ゲリラ豪雨や大雨被害については依然高い関心をもっているようです。

■ 谷津田を保全する取組みの認知度 (%)

平成21年度	平成28年度	平成21年度との比較	傾向	評価
31.4	38.8	+7.4	<p>A line graph with a dashed black line connecting two data points. The vertical axis is labeled from 25 to 45 in increments of 5. The first point is at 31.4 (Heisei 21) and the second point is at 38.8 (Heisei 28). The background is a light green grid.</p>	<p>様々な動植物が生息している千葉市の谷津田を保全する取組みについてお聞きし、知っている割合は、38.8%となり谷津田の保全に関する取組みが認知されつつあるようです。</p>

□ 水環境を良くするために、あなたができると思うことは何か (%) (複数回答あり)

結果	評価															
<p>A horizontal bar chart comparing four water conservation measures between Heisei 21 (H21, light blue) and Heisei 28 (H28, dark blue). The x-axis shows percentages from 0% to 35% in 5% increments. Each measure has a ranking number in a box above the bars.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>取組み</th> <th>H21 (%)</th> <th>H28 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 節水に心がける(風呂水で洗濯、歯磨きでは蛇口の水を止めるなど)</td> <td>31.0%</td> <td>28.9%</td> </tr> <tr> <td>2 家庭から汚れた排水を減らす(野菜くずや油を流さないなど)</td> <td>30.2%</td> <td>28.3%</td> </tr> <tr> <td>3 雨水を溜めて庭の散水などに使う</td> <td>12.2%</td> <td>10.3%</td> </tr> <tr> <td>4 溝や川・湧き水・湿地などでのごみ拾い</td> <td>8.2%</td> <td>9.0%</td> </tr> </tbody> </table>	取組み	H21 (%)	H28 (%)	1 節水に心がける(風呂水で洗濯、歯磨きでは蛇口の水を止めるなど)	31.0%	28.9%	2 家庭から汚れた排水を減らす(野菜くずや油を流さないなど)	30.2%	28.3%	3 雨水を溜めて庭の散水などに使う	12.2%	10.3%	4 溝や川・湧き水・湿地などでのごみ拾い	8.2%	9.0%	<p>水環境を良くするために、あなたができると思うことについてお聞きしました。平成21年度と比較すると、大きな変化はありませんでしたが、傾向としては、家庭でできる対策について高い関心を持っているようです。</p>
取組み	H21 (%)	H28 (%)														
1 節水に心がける(風呂水で洗濯、歯磨きでは蛇口の水を止めるなど)	31.0%	28.9%														
2 家庭から汚れた排水を減らす(野菜くずや油を流さないなど)	30.2%	28.3%														
3 雨水を溜めて庭の散水などに使う	12.2%	10.3%														
4 溝や川・湧き水・湿地などでのごみ拾い	8.2%	9.0%														

※ インターネットを通じて、市民の環境配慮行動の実践状況についてアンケートを実施した結果です。平成25年度をもってインターネットモニターが終了したことから、平成26年度からは広く市民を対象とするWEBアンケートに移行しています。

※ 平成21年度は、インターネットモニター登録者1,839名中913名が回答(回答率49.6%)

※ 平成28年度は、市ホームページによるWEBアンケートを実施し、613名が回答

## 水質が生物に及ぼす影響を知ろう

環境基本法に基づき、人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準として、水質の環境基準が設定されています。ここでは環境基準として設定された項目のうち、生物への影響があるものとして代表的なものを紹介します。

### 生活環境項目

- ◆ 溶存酸素量 (DO)・・・水中に溶解している酸素量のこと、少なくなると水生生物が呼吸できなくなるため、酸素を必要とする生物が生息できなくなります。また近年、特に水中の底層に暮らす生物の生息、繁殖環境の保全の観点から、底層溶存酸素量が新たに環境基準に追加されました。
- ◆ 生物化学的酸素要求量 (BOD)・・・ある一定期間に、水中の微生物が有機物を分解する際に消費する酸素量のこと、有機物汚濁の指標として広く用いられています。BODが多いと、その分解過程でたくさんの溶存酸素が消費されるため、水生生物にとって住みにくい環境となります。
- ◆ 浮遊物質 (SS)・・・水中に懸濁する不溶性の物質であり、多量にあると魚類のエラに詰まることで、窒息死の原因となることがあります。
- ◆ 全窒素、全りん・・・印旛沼などの湖沼や東京湾などの陸地に囲まれた海域では、陸地からの生活排水等に含まれる窒素、りんが蓄積する、富栄養化現象が問題となっています。これらが多いと、海域ではプランクトンの異常繁殖による赤潮が発生し、水中の酸素を消費してしまうことで、水生生物の大量死を招くことがあります。また、湖沼ではアオコなどの浮遊性植物が水面に大量発生し、太陽の光を遮ることにより、水中の植物等を死滅させる原因ともなっています。
- ◆ 全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (LAS)
  - ・・・水生生物及びその餌となる生物の生息・生育環境の保全を目的として、平成 15 年 11 月に全亜鉛、平成 24 年 8 月にノニルフェノール、平成 25 年 3 月に LAS が「水生生物の保全に係る環境基準」として新たに設定されています。

### 健康項目

- ◆ カドミウム、鉛などの重金属類、テトラクロロエチレンなどの揮発性有機化合物 (VOC)、農薬類など計 27 項目が設定されています。人の健康への影響と同様、重金属類には慢性毒性が、VOC 等には発がん性が指摘されています。

#### ※プランクトン

水域に生息する生物のうち、遊泳力がないか、多少あるにしても水の動きに逆らっては移動できずに浮遊生活を送る生物をプランクトン又は浮遊生物といいます。